

入間地区中原自治会

昭和50年に北入曾中区(入間第二区)から分かれて独立し、現在では世帯数も約750に増え、入間地区でも有数な規模の自治会に成長しました。自治会の南側には不老川が流れていて、「不老川をきれいにする会」の設立当初から川の浄化に努力してきました。環境衛生への住民の関心はとて高く、春と秋の清掃作業をはじめ、生ごみリサイクルなどにも積極的に参加しています。また、集団資源回収を毎月2回行い収益金を積み立て、集会施設の建設に役立てようと協力し合っています。ほかの自治会同様、夏祭りや体育祭への積極的な参加を呼びかけていますが、会員の自治会行事への関心をより高めていくことが今後の課題です。



夏を迎える前の除草も年間行事の一つ

わかるかな? 今月の写真クイズ

写真は、今月の広報さやまに掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか?

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課宛お送りください。  
締め切り7月31日(当日消印有効)

6月10日号の答え

2ページの「西武ドームでの3市合同訓練」で中央の隊員が着ている防護服の写真でした。



表紙の写真

6月26日(土)、柏原新狭山線が開通し、柏原地区、奥富地区、新狭山地区の絆がますます強まりました。梅雨を吹き飛ばすような日ざしの下で式典が挙行された後、丈夫で安全な橋にと願いを込めて、地元の三世代三夫婦を先頭に、開通行事の「いるまがわ大橋の渡り初め」が行われました。

池原 昭治

さやまのふるさと

第110話



動物にまつわる昔話 その3

動物を題材にして、狭山市で語られた貴重な昔話を紹介します。

モズが木の枝に餌をかける話

「昔ねえ、狭山あたりは、まだまだ森や林がおおくて、鳥や動物がわがもの顔で住んでいたところのお話だよ。働きものの『モズ』は馬で、元気もの『ホトトギス』が鍛冶屋だつ

たんだ。ある日のこと、モズ(馬)は仕事の帰り道に、大事な蹄鉄を壊してしまったんだよ。それでねえ、さっそくホトトギス(鍛冶屋)のところへ寄つて、直してくれるように頼んだんだつて。ところが、モズは貧しくて代金を払うことができなかったさ。つなだ。それでモズは、餌をとつてきてはホトトギスの家の前の、木の枝に引っかけていくようになったんだつてさ。これは、モズがホトトギスに、蹄鉄を直してもらったお礼のためで

今でもなお、ずーっと続けているんだつてさ」



5月に続いてご紹介するのは奥富の前田に生まれ、大芦に嫁いだ生粋の狭山っ子の故・佐藤つるさんが生前に語られた、本格的な昔話です。

この話は、昔話が世間話にされたもので、昔話のよつに「昔ねえ」と語られていますが、内容は話のすじが断片的であったり、世間話的に作られたところもあります。